



平成 22 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 ユニデン株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 前田 弘之
コード番号 6815 (東証第一部)
問 合 せ 先 財務経理部 部長 掛川 隆
電 話 番 号 03-5543-2800

平成 22 年 3 月期通期の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成 21 年 11 月 11 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期通期の連結業績予想と本日公表した実績に差異が生じたので下記の通りお知らせ致します。

記

1. 連結業績予想と実績との差異

(単位：百万円)

平成 22 年 3 月期通期実績 (平成 21 年 4 月 1 日 ~ 平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	34,200	△3,100	△6,600	△7,550	△128 円 16 銭
今回実績(B)	35,510	△4,977	△7,206	△7,509	△127 円 47 銭
増減額(B-A)	1,310	△1,877	△606	41	69 銭
増減率 (%)	3.8	-	-	-	-
(ご参考)前期通期実績 平成 21 年 3 月期	49,635	△5,002	△2,549	△10,787	△185 円 46 銭

2. 差異が生じた理由

主な差異の要因は以下の通りであります。

主力生産拠点であるベトナム工場の生産性改善活動を実施した結果、第 4 四半期には大幅な改善が確認出来るまでになりました。この結果、受注数量を確実に供給できる体制が整ったため、これを前提に翌期における生産計画及び販売計画を見直しました。

- ① この計画の見直しに際し、より収益性の高い製品群を中心とした販売計画に移行したことに伴い、保有する原材料等棚卸資産の使用可能性を見直しました。その結果、棚卸資産の評価減が発生したため営業利益が悪化いたしました。
- ② 第 4 四半期において生産効率の改善が確認出来たことから翌期における販売活動の活性化を期待し、販売促進施策を積極的に行ったことにより販管費が増加いたしました。加えてベトナム工場の生産効率の大幅な改善に伴う翌期の増産計画に対応するため、製造人員を維持したことが製造原価の一時的な増加につながり営業利益が悪化いたしました。

これらの要因から売上原価、販売費及び一般管理費の増加により差異が生じたものです。

以上

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。